■ 海外情報 ■

ヴァイマール(ワイマール)共和国時代 (1920年代)のベルリン

お茶の水女子大学名誉教授 田中 辰明

はじめに

筆者には昔活躍し、世の中に影響を与えた人はどのような住宅に住んでいたか、どのように埋葬されたかなどを調べる癖がある。ドイツの場合、住所が分かれば全ての道路に名前が付いているので、あとは住宅番号で探し当てるのは比較的簡単である。このような事からヴァイマール共和国時代(1920年代)にベルリンで活躍した方々の住宅を調べ上げた。ベルリンを訪問するたびに少しずつその住宅を訪ね、写真に収めた。本稿ではその写真を披露したい。

1. ヴァイマール共和国

ドイツ帝国は第一次世界大戦後ロシア革命に影響されて起こったドイツ革命により1918年に崩壊した。そして第一次世界大戦の敗戦国となる。帝政崩壊後の中心勢力となったドイツ社会民主党は共和制に基づく新政府樹立を果たした。議会制民主主義の枠組みを尊重する理想的と言われた近代憲法、ヴァイマール憲法が1919年に制定される。

そしてヴァイマール共和国が成立した。ヴァイマール共和国と言っても首都がヴァイマールにあったのではなく、首都はベルリンであった。当時の憲法の草案がヴァイマールで作成されたことからヴァイマール共和国と呼ばれている。草案者はフーゴ・プロイス(1860~1925)というベルリン出身のユダヤ系ドイツ人の法学者であった。ヴァイマール憲法は男女20歳にして選挙権を与えるなど極めて民主的な憲法で、現在のドイツ連邦共和国基本法もこれに倣っている。ドイツで女性が参政権を得たのは1918年で、英国1928年、米国1920年、フランス、日本1945年と比べても早い。スイスに至っては1993年である。

しかしヴァイマール共和国時代の憲法は理想的であっても、政治は不安定で、政権がよく交替し、ついには1933年にヒットラーが率いるナチス党が政権を掌握するとい

う破綻への道を歩んでしまう。しかしこの1920年代は 後の時代になって黄金の1920年代と呼ばれ、いろいろの 文化が華を咲かせた時代であった。その中心地がベルリ ンであった。

2. ベルリンのモダニズム

1920年代はベルリンのモダニズム(Berliner Moderne) が謳歌した時代でもあった。ヴァイマール共和国は第一次世界大戦の敗戦と革命の後、民主的な政治家により創立されたものである。強制からの解放、技術の革新、それを支えた進歩的な技術者、学者。さらに芸術家と役者がそろっていた。しかし共和国政府の権力基盤は不安定で、ドイツ人にとっては屈辱的なベルサイル条約を受け入れ、払いきれない賠償金支払いを承諾させられることとなる。政府は工業化を進め諸外国の要求に出来るだけ応じる「履行政策」を採ることとなる。その結果ベルリンのような大都市に地方から労働者が集まり、技術革新も進み、大工場が動き出し、たちまちに世界第2の工業国となる。しかし犠牲となるのは労働者で、ベルリンの労働者の住宅はまるで監獄のようであったとも言われている。

労働者の困窮については多くの文献に書かれているが、当時のベルリンの労働者の生活を多くペーソスの溢れるタッチでスケッチしたハインリッヒ・チレ(Heinrich Zille)という画家がいる。チレがアトリエとして使用し、かつ居住していた集合住宅を写真1に示す。この所在地はBerlin,Charlottenburg,Sophie-Charlottenstraße 88である。貧乏長屋の生活を描いたスケッチはたくさん残っているが、多くは子沢山で親は貧乏にあえいでいる。住宅は湿りがちで不衛生である。図1にチレが描いた当時の貧困労働者が住む集合住宅の絵を示す。弟の面倒見を頼まれた姉が母親に向かって「フリッツのおしめがびしょ濡れだよ!」と叫んでいる。家事に忙しい母親は「陽の当たる所においておきな!」と答えている。このフリッツ坊やもナチスのドイツ兵として「ハイル・ヒットラー!」と叫び戦場の露と化したのでないかと考えると



写真 1 ハインリッヒ・チレがアトリエとして使用しかつ住居としていた集合住宅

もの悲しくなる。このような労働者住宅でも子沢山であ る。奥の方では子供たちが輪を作って遊んでいる。ここ では絵は縮小され見えないが子供たちは皆笑っている。 子供の笑いはこの貧乏長屋住民の明日の希望を表してい る。第一次世界大戦で敗戦国になり、領土を縮小され、払 いきれない賠償金を突き付けられたドイツは気が付けば 第二次世界大戦を吹っ掛ける力をつけてきた。そして第 二次世界大戦での敗戦、今度は都市の多くが焦土と化し 復興は絶対にありえないと考えられていた。しかし奇跡 の復興を果たし現在は世界の高速道路をドイツ車が鼻 高々と走り回っているし、2011年にギリシャの財政破た んから生じた欧州の経済危機からの復活はドイツにゆだ ねられている。ゲルマンの神話に「神々の黄昏」がある。 これはリヒャルド・ヴァグナーが作曲し楽劇として有名 になった。ニーベルンゲンの指環の4部作の4作目であ る。ゲルマンの神は黄昏れるが、そこからまた新しい芽 生えが生じ繁栄するというものである。ハイリッヒ・チ レはゲルマン民族の衰退と繁栄を繰り返し、特にピンチ になった時の団結力と力強さをこの一枚の絵に凝縮し、 表現したものと考えられる。

当時労働者の健康を考えて住宅を作ろうとしてベルリンに出てきたのがブルーノ・タウトであった。屈辱的なヴェルサイユ条約に反発したドイツ右翼の扇動もあり、ルール地方から石炭をフランス、ベルギーに送る約束を履行しないというサボタージュも起こった。これに対し、フランス、ベルギーがドイツの大工業地帯であるルール地方を1923年に軍事占領している。第二次世界大戦は1939年9月1日にヒットラーがポーランド侵攻を指示し、9月3日に英仏両国がドイツへの宣戦布告を出して、始まったことになっている。しかしドイツにはドイツの



図 1 ハインリッヒ・チレが描いた 貧乏労働者住宅¹⁰⁾

心臓部であるルール地方を占領されるという屈辱的な理 由があったのである。ドイツはソ連と結び、再軍備を始 める。工業力がつけば再軍備も可能になってくる。この ようなことから「賠償金の支払い停止」を掲げる右翼政党 のナチス党が国民の支持を得、民主的な選挙により1933 年にヒトラーが首相に就任している。この時も強力な既 成政党であった社会民主党、共産党が党利党略にはしり、 協力をしなかったので、ナチス党の進出を抑える事が出 来なかった。ヴァイマール共和国時代である1920年代 はこのような大混乱の時代であり、政治、経済的にはまれ に見る厳しい時代であった。しかし文化的観点で見ると 素晴らしい華が咲いた時代でもあった。ベルリン出身の 大女優マレーネ・ディートリッヒ (Marlene Dietrich)が 「嘆きの天使」、「モロッコ」、「上海特急」などで退廃的な 美貌、セクシーな歌声、その脚線美で国際的な名声を獲得 した。ベルリンは退廃的、刹那的ムードに包まれていた。 ディートリッヒは1992年パリで91歳で死去するが、ベ ルリンの墓地に葬られ現在もファンの墓参者が絶えない (写真2)。ディートリッヒ旧宅を写真3に示す。所在地 はBerlin, Wilmersdorf, Bundesallee 54である。

キャバレー、バー、売春、ポルノ、麻薬も流行し、一方でインフレに苦しむ労働者がいた。労働者の多くは子沢山で、低賃金と働けど、働けどべらぼうなインフレに悩み、生活苦にあえいでいた(図2)。ブルーノ・タウトはこのような時代に労働者の健康を考えて多くの集合住宅を



Hier steh ich an den Marke: meiner Tage

写真2 参拝者が絶えない ディートリッヒの墓石



写真3 ディートリッヒの旧宅

図2 ハインリッヒ・ チレが描いたベルリン のキャバレー(1920年 代)10)

作っていった建築家であった。

さて廃頽的なベルリンにおいても「栄華の巷低く見 て・・・」というエリート集団もいた。その多くはユダヤ 系ドイツ人であった。ユダヤ人は財産を身に付けていて も流浪を繰り返していることから、蓄財より子弟の教育 に力を入れた。当時ドイツの大学への進学率はユダヤ系 ドイツ人の方が圧倒的に多かった。ヴァイマール憲法の 草案を練ったフーゴ・プロイス(1860~1925)もベルリ ン生まれのユダヤ系ドイツ人であったし、ヴェルサイユ 条約を締結し国際社会復帰に努力した当時の外務大臣 ヴァルター・ラテナウもユダヤ系ドイツ人であった。当 時右翼による暗殺事件が多く、当然、ユダヤ人であるラテ ナウもその対象になった。氏はドイツの大重工業となっ たAEG創始者エミール・ラテナウの子息でもあり、その 社長でもあった。AEGのタービン工場をペーター・ベー レンスに設計を依頼し、1908年に竣工している。1922年 6月24日ベルリン市西郊のダーレムにある自宅を車で



写真 5 ラテナウ旧宅、所在地:Berlin, Grunewald, Königsallee 65



写真 4 外務大臣



在地:Berlin, Friedenau Cranachstraße 58

写真6 ローザ・ルクセン ブルグ旧宅前の記念碑



写真8 アインシュタインの旧宅 にある銘板

出、外務省に向かう所を右翼の手りゅう弾により暗殺さ れている。その慰霊碑は暗殺現場に建設された(写真4)。 ラテナウ旧宅を写真5に示す。所在地はBerlin, Grunewald, Königsallee 65である。マルクス主義の政治・理論家、哲 学者、革命家でドイツ共産党を結成し、最後は虐殺され たローザ・ルクセンブルグ(Rosa Luxemburg, 1871~ 1919) もユダヤ人であった。旧宅前にはローザ・ルクセ ンブルグの顔写真と記念碑がある(写真6)。旧宅を写真 7に示す。所在地はBerlin, Friedenau Cranachstraße 58 である。「相対性理論」のアルバート・アインシュタイン (Albert Einstein, 1879~1955) もユダヤ人であった。 その旧宅にも銘板がある(写真8)。旧宅を写真9に示す。 所在地はBerlin Dahlem, Ehrenbergstraße 33である。「変 身」、「審判」などの名作を残したフランツ・カフカ(Franz Kafka, 1883~1924) もユダヤ人であり、その旧宅にも銘 板がある(写真10)。旧宅を写真11に示す。所在地はBerlin Steglitz, Grunewaldstraße 13である。精神分析学を確立し たジグムンド・フロイド(Sigmund Freud, 1956~1939) もユダヤ人であった。グリーン軍曹を巡る争い(白色人種 の大戦争)などの作品を残した小説家アルノルド・ツヴァ





旧宅にある銘板

写真 13 アルノルド・ ツヴァイクの旧宅、 旧宅所在地:Berlin-Niederschönhausen, Homeyerstraße 13

写真 12 アルノルド・ツヴァイクの 旧宅銘板

イク(Arnold Zweig, 1887~1968)も当時活躍したユダヤ系ドイツ人であった。旧宅前の銘板を写真12に、旧宅を写真13に示す。旧宅の所在地はBerlin-Niederschönhausen, Homeyerstraße 13である。木綿や綿布などの商取引で巨大な富を築きあげたジェームス・ジモン(James Henry Simon, 1851~1932)はユダヤ教の教えに従い、富める者のなすべき義務としてベルリン市に博物館を寄進したり、弱者への寄進を多く行ったユダヤ系ドイツ人である。特に紀元前1338年ころの古代エジプトの女王「ネフェル



写真 14 ネフェルティティ胸像、ベルリン新博物館



REGULINER GEDENKTVAREL

Granden for on many sugar state day amount

JAMES HERVES MON

LEGISLATION

LEGISLATIO

写真 16 ジモンが寄付した 室内水泳プール

写真 15 豪商ジモンがベルリン市に室内水泳プールを寄付したという銘板

ティティ」の寄贈は有名である。ネフェルティティの胸像は東西ベルリンが分割されていた時代には西ベルリンのエジプト博物館に保管されていたが、現在は旧東ベルリンの博物館島の新博物館に収められている。3000年を超える胸像で今日まで、鮮やかな色彩と彫の深さ、絶世の美人を今日まで伝えているのは驚異的な事である(写真14)。筆者はベルリンを訪問するたびにできるだけこの博物館を訪問し、「ネフェルティティ」の像に再会することを楽しみにしている。ジモンはベルリンの中心部に室内プール場を建設し、これをベルリン市に寄贈している。寄贈の銘板を写真15に示す。また寄贈を行った室内プール(所在地: Gartenstr.5, 10115 Berlin)を写真16に示す。

人類の為に大いに貢献した人に授与されるノーベル賞 もヴァイマール共和国時代にドイツ人として授けられた うち、アインシュタイン初めユダヤ系ドイツ人が非常に 多い。ドイツ人受賞者の1/3はユダヤ系であったのである。しかも当時のドイツにおけるユダヤ人の占める人口割合は1%以下であったから、その比率の高さに驚かされる。当時のユダヤ人がドイツ人と反目して生活をしていたかと言うとそうでもない。文豪ゲーテは晩年に「ファウスト」を著し、より美しいものを求めて、真実を貫き、常に向上心を持ち、ドイツ精神の鑑とも言われた人物である。しかしこのゲーテ研究を行い成果をあげたのはルードビッヒ・ガイガーやエミール・ルドヴィッヒらユダヤ人であった。

3. ヴァイマール共和国時代と表現主義

1920年代のベルリンは表現主義の時代であった。表現主義とは印象主義と対をなす言葉で、ドレースデンで1905年に前衛絵画グループ・ブリュッケが生まれ、ドイツ表現主義と言われる運動の起点になった。これが花開いたのが1920年代である。ブリュッケの絵画館はベルリン市グリーネヴァルトの入り口にあり、展示物はよく入れ替えられている。住所はBussardsteig 9, 14195 Berlinである。緑の森の中に佇むブリュッケの絵画館を写真17に示す。

表現主義とは、様々な芸術分野(絵画、文学、映画、演劇、写真、建築など)において、一般に、感情を作品中に反映させて表現する傾向のことを指す。表現主義以前の絵画では精密さを大切に遠近法や解剖学、明暗法を用い理知的に色彩構成を考えたのに対し、表現主義はあくまでも情緒的に色彩を使用した。この色彩を建築に多用したというところで、ブルーノ・タウトは表現主義の建築家と言われた。表現主義建築の歴史において特筆に値する出来事としては、1914年にケルンで行われた第1回ドイツ



写真 17 ブリュッケの絵画館



写真 18 ライベダンツ氏の墓標



写真 19 マックス・タウトの旧宅

ヴェルクブンド展、ハンス・ペルツィヒ設計のベルリン大劇場(Großes Schauspielhaus)の1919年落成とその後の上演活動、ブルーノ・タウト中心とした建築家たちによる往復書簡「ガラスの鎖」(Gläserne Kette)がある。ブルーノ・タウトの実弟であるマックス・タウトも建築家として優れた作品を残している。氏のライベダンツ氏の墓標は表現主義の傑作と言ってよい。墓地はベルリン市ノイケルン地区にある市営ルイーゼ墓地(Luisestädtische Friedhof)にあり、所在地はSüdstern 12, 10691 Berlinである。ライベダンツ氏の墓標を写真18に示す。マックス・タウトは自ら設計した住宅に住んでいた。住所はZikandenweg 55, 14055 Berlinである。この住宅の庭側からの写真を写真19に示す。

主要な建築物は、表現主義建築のシンボルとも称されるエーリヒ・メンデルゾーン(1887~1953)作のアインシュタイン塔(1921年、ポツダム、Telegrafenberg/Albert-Einsteinstr. Auf dem Gelände des Astrophysikalischen Institutes Potsdam)がある。エーリッヒ・メンデルゾーン(写真20、旧宅所在地: Berlin, Charlottenburg, Am Rupenhorn 6)はブルーノ・タウトと同じくケーニヒ



写真 20 エーリッヒ・メンデルゾーン設計のアインシュタイン塔

スベルクの出身で、シュトゥットガルトでテオドール・フィッシャーの弟子となっているところもタウトと同様である。 しかしメンデルゾーンはユダヤ系ドイツ人であったことから、ナチが政権を取った後英国へ亡命している。

北ドイツ表現主義建築を代表するフリッツ・ヘーガー のチリハウス(1924年、ハンブルク)などもある。

当時のドイツは第一次世界大戦敗戦後の困窮した経済状態で、建築の依頼は限られていた。そのため、設計されたまま実現することのなかった作品や、短期間のみ展示された建物も非常に多かった(これらの中には、ブルーノ・タウトのアルプス建築[Alpine Architektur、1917年]やヘルマン・フィンステルリン[Hermann Finsterlin]の形式遊び[Formspiel、1924年]のように、建築学史において重要な位置をしめる作品も少なくない)。ブルーノ・タウトのガラス建築に多大な影響を与えたパウル・シェアバルトはベルリンのリヒターフェルドに住んでいた。「人間は自由でなければいけない」というシェアバルトの言葉を書いた旧宅にある銘板を写真21に示す。また旧宅を写真22(所在地:Berlin Lichterfelde 4,Marschnerstraße 15)に示す。タウトに社会主義の思想を教示したエーリッ



ヒ・バローン(Erich Baron)はベルリンのパンカウに住んでいた。住宅前の銘板を写真23に、旧宅を写真24(1875、所在地: Berlin Pankow Kavalierstraße 22)に示す。

1925年までにタウトやメンデルゾーン、ペルツィヒは、 視覚芸術における表現主義芸術家たちとともに新即物主 義の運動へと転じていった。これはより実際的・実務的 な方法論に基づくもので、表現主義が初期に試みた実験 精神を放棄するほどの大きな方向転換であった。以降、 初期の表現主義の作風を堅守したのはハンス・シャロウ ン(1893~1972)などの少数派に限られる。 ハンス・シャ ロウンはジーメンスシュタットの中の集合住宅の中に住 んでいた。住所はBerlin Siemensstadt, Jungfernheideweg4 である。その集合住宅を写真25に示す。1933年にナチ ス政権が樹立された後は、表現主義は「退廃的な芸術」と して非合法化され、運動それ自体は終息へ向かった。バ ウハウス(Bauhaus, バオハオス)は、1919年、ドイツ・ ヴァイマールに1919年に設立された、工芸・写真・デザ インなどを含む美術と建築に関する総合的な教育を行っ た学校である。バウハウスもモダニズムに大きな影響を 与えたが、同様ナチスによる弾圧で、14年間で歴史を閉 じている。^{4)、5)、6)}タウトは来日し、歌麿の浮世絵が当時 の政治批判に繋がったことから歌麿が50日間手を縛ら れたことを知り、「政治は芸術に口出しをしてはいけな い」と批判している。

ベルリン市では地下鉄は1902年に開業している。しかし大幅に営業路線を伸ばしたのが1920年代である。 Sバーンと呼ばれる高架鉄道も1925年から26年にかけ



写真 23 エーリッヒ・バロンの 旧宅前にある銘板

電化が行われ、これも営業路線を大幅に伸ばした。この時代の特徴にFKKがある。これはFreiekörperkulturの略、すなわち「裸文化」である。この文化が始まったのはドイツ帝国(1871~1918)の頃である。裸体となることで、自然に戻ろうとする文化である。自然の中で裸になり、自分の体、肌で自然と一体になり、精神も肉体も健康になるという考えである。ヴァイマール帝国の頃(1919~1933年)にFKKは勢力を増した。自然に帰ろうという考えは市民に迎えられた。狭い都会の住宅に住み、労働に明け暮れた人達が自然の中で体も心も衣服から解放されようとする思想である。これは現在でも続いており、ベルリンの特定の湖はFKK専用となっているし、都市の



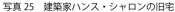




図3 ハインリッヒ・チレが描いた FKK¹⁰⁾

中の公園でも全裸の人たちを見る。東西ドイツに分かれ ていた時代はかえって旧東独の方がこの運動は盛んで あった。ナチスドイツの時に「制服についている勲章が 一つでも多ければ偉い」といった事への反発もあったそ うである。一方西ドイツでは占領した米軍がFKKを禁止 したそうである。しかし筆者がベルリンに住んだ1971 年ころには既に復活していた。ベルリンの冬は長く、暗 い。短い夏を堪能しようという考えがあるのであろう。 ベルリンの労働者の生活を沢山描いたハインリッヒ・チ レもベルリンの湖でのFKKのスケッチを残している(図 3)。 タウトが少林山に移って間もない。 1934年8月3 日のタウトの日記に「碓氷川の川面はいかにも穏やかに 見えるが、水勢はかなり激しい。ここで水浴みする子供 たちは、みんな水着をつけている。(宣教師の勧めで!) 『若い日本』は恥ずかしがり屋だ。」と書いている。これな どもドイツのFKKとの対比で書いたのであろう。

自動車が走り出したのも1920年代で、1929年にベルリンで10万台の自動車が登録されていた。当時一番交通量の多かったベルリン市ポツダム広場に1924年に交通信号が設けられている。ベルリン市を流れるシュプレー河は貨物を輸送する水路として使用され、ヴェストハーフェンと呼ばれる港が1925年に開港し、ドイツの内陸にある最大の港となった。そして大形倉庫も建設された。1925年にベルリンにフンクトウルムと呼ばれる電波塔が建設され、広域にラジオ放送が送られるようになった。またそこで見本市が開催されるようになった。発電所も発電能力を増し、アイロンや電気調理器など電化製品が生産されるようになった。モダンな建築も多く建てられ

るようになった。そこで活躍したのがブルーノ・タウトである。1930年に竣工したシェルハウス(所在地:Berlin, Tiergarten Reichpietschufer)はエミール・ファーレンカンプによって設計されたものであるが、ベルリンのモダニズム建築である。

パリのシャンゼリゼに匹敵する高級感溢れる大ショッピングストリートを作ろうとして当時完成したのがクアヒルステンダム(通称クーダム)である。昔皇帝がグリーネヴァルトの「狩りの館」へ馬車で出かけるための道であったのだが、これが大商店街として拡充されたのが1920年代であった。全長3.5km、幅53mで現在も高級ブティック、カフェ、専門店レストランが並ぶ。1920年代にはこの道路に沿ってエーリッヒ・ケストナー初め有名人が多数居を構えた。エーリッヒ・メンデルゾーンが集合住宅と共存の映画館、キャバレーを作ったのもこの道である。クーダムを題材にした映画は非常に多い。

おわりに

ご縁あって、今日この報文を手にして下さった読者と 心の時間を共有できたことを大きな喜びとする。報文に 記した住所を頼りにそれぞれの建築物、住宅をベルリン で探し出して下さり、当時活躍した人たちの生活に想い をはせて頂ければ望外の喜びである。前述したように筆 者は1920年代にベルリンで活躍した人々の旧宅を見つ け出し写真に収める事を喜びとしてきた。本文で入りき らなかった人々で読者のご参考になると思われる方々の 旧宅を以下に注釈として紹介する。

〈註〉

1) オットー・ハーン(Otto Hahn、1879~1968)はベルリン 大学教授、ウランに中性子をあてるとバリウムとクリプトン に核分裂する事を発見、これが後の原爆製造計画に繋がった。 1944年にノーベル物理学賞受賞。ハーンの自宅前の銘板を 写真26に旧宅(1808)を写真27に示す。旧宅所在地はBerlin Dahlem, Altensteinstraße 48である。



写真 26 オットー・ハーン旧宅の銘板

2) ベルトルト・ブレヒト(Bertolt Brecht, 1898~1956)は 1922年に「夜の太鼓」でクライスト賞受賞。戯曲「三文オペラ」、「肝っ玉母さんとその子供たち」で有名。ナチ時代は外国へ亡命したが大戦後東ベルリンに住んだ。旧宅の銘板を写真28、旧宅を写真29に示す。旧宅所在地はBerlin Mitte Chausseestraße 125である。



写真 29 ベルトルト・ブレヒトの 旧宅

写真 28 ベルトルト・ブレヒトの 旧宅前の銘板

3) グスタフ・リリエンタール(Gustav Lilienthal, 1849~1933) は兄オットー・リリエンタールと共に鳥の飛翔の研究を行った。1893年にグライダーを作り、飛行に成功した。これはライト兄弟よりも早い。ベルリンのテーゲル飛行場はリリエンタール飛行場とも呼ばれている。兄の家は無いがグスタフの家は存在する。旧宅にある銘板を写真30、旧宅を写真31に示す。旧宅の所在地はBerlin Lichterfelde, Marthastraße 5である。



写真 31 グスタフ・リリエン タールの旧宅

写真 30 グスタフ・リリエンタール 旧宅前の銘板

4) レニ・リーフェンシュタール(Leni Riefenstahl, 1902~2003) は、ドイツの映画監督、写真家。世界最年長のスクーバダイバーでもあった。特にナチスに才能を見込まれ、1940年ベルリンオリンピックの映画を作成し、これがナチスの宣伝に使われた。その事から戦後戦争犯罪に問われた。この旧宅を写真32に示す。旧宅所在地はBerlin Schmargendorf, Heydenstraße 30である。



写真32 レニ・リーフェンシュタールの旧宅

〈参考文献〉

- 1. 田中辰明・柚本玲「建築家ブルーノ・タウト-人とその時代、建築、工芸 オーム社
- 2. 田中辰明「ブルーノ・タウト・・日本美を再発見した建築家」、 中公新書2159
- 3. 田中辰明「ブルーノ・タウトと建築・芸術・社会」東海大学出版会
- 4. 田中辰明「バウハウス(ヴァイマール)」月刊建築仕上技術2014 年8月号、工文社
- 5. 田中辰明「バウハウス(デッサウ)」月刊建築仕上技術2014年9 月号、工文社
- 6. 田中辰明「バウハウス(ベルリン)」月刊建築仕上技術2014年 10月号、工文社
- 7. 田中辰明「ナチス好みの建築」月刊建築仕上技術2014年11月号、 工文社
- 8. 田中辰明 建築家エルンスト・マイの生涯と作品 月刊建築仕 上技術2015年2月号、工文社
- 9. 田中辰明 建築家エルンスト・マイの生涯と作品(その2) 月刊 建築仕上技術2015年3月号、工文社
- Herbert Reinoß "Das neue Zille Buch" Fackelträger Verlag Schmidt – Küster GmbH